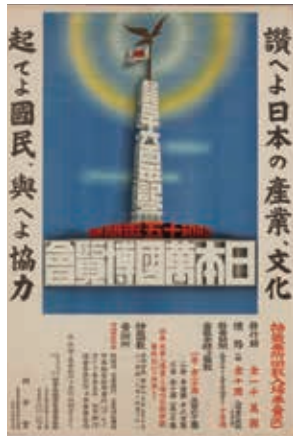


まぼろしの万博と勝鬨橋

現在ではさまざまな国で開かれている万国博覧会。
日本では1970(昭和45)年に大阪で開催したのが最初だが、
それよりも30年も前に、晴海で万博が予定されていた。
勝鬨橋は、万博のことも考えて建設されたのだった。

万博のために用意されたポスター。



<お祝いと戦争>

日本でいちばんはじめの天皇といわれる神武天皇が即位して、ちょうど2600年にあたる1940(昭和15)年に、そのお祝いの行事として国際万国博覧会が晴海で行われることになった。そもそも晴海は万博のためにつくられたわけではなく、港湾施設建設のためのものだったが、その後の開発がなかなか進まなかったため、会場として計画された。



完成予定のめいもつくられた。

万博のための会報誌も発行された。



抽選券つきの入場券。12枚つづりで10円。



『日本万国博覧会概要』に掲載された完成予定図。4号地は晴海、5号地は豊洲(江東区)の会場。



この入場券は、大阪万博(1970年)、愛知万博(2005年)で使えたんだって!

結局、中止に……

1937(昭和12)年に日中戦争が始まり、日本とアメリカも対立するようになり、世界の人々を集める万博を開く状況ではなくなった。そのため1938(昭和13)年7月に万博の中止が決定され、会場の建設も中止になった。万博事務局の建物だけは完成し、のちに陸軍病院として使われた。

戦争で大変なときに万博どころではないぞ!

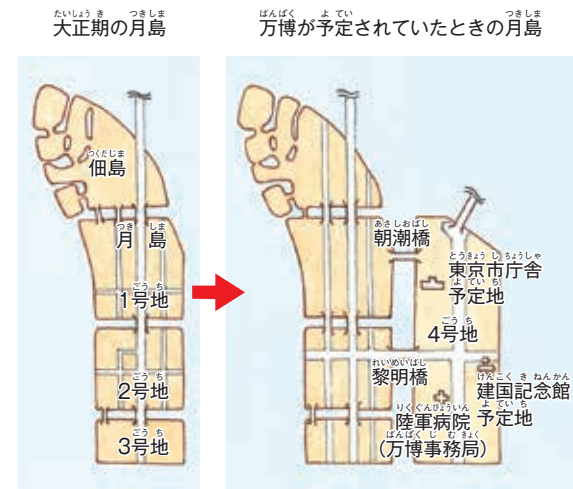


万博事務局棟。今の晴海中学の辺りに建てられた。その後戦争で、どうなったかわかっていない。

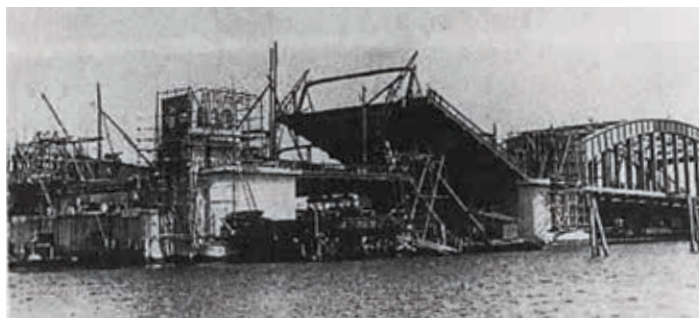


月島の埋め立て

1931(昭和6)年に完成した月島4号地。東京市庁舎や建国記念館が建てられる予定だった。



万博へとつなぐ橋



1933(昭和8)年に建設がはじまった。



多いときで1日に5回開くこともあった。わざわざ見に来る人もいて、東京名物になっていた。



橋の上は、人や車だけでなく、都電も走った。



開いているところ、見てみたいな。



開かずの橋となった

1962(昭和37)年の橋のようす。ものすごい車の量だ。



勝鬨橋ができたことから、月島、晴海への交通量がぐっと増えた。船が通るたびに橋の交通が止まってしまうため、交通渋滞が起るようになった。ついに1970(昭和45)年で橋の開閉は中止となった。

戦争に向かって

社会は一気に戦争の雰囲気となっていった。人々の生活も戦争とむすびつけられ、とにかく質素、節約がさげばれた。経済の面でも、軍需品の生産が優先的に行われ、生活用品や食べ物までも制約されていた。



「ぜいたくは敵だ」というプラカードを持つ女性。

なんでもがまんなんて、たえられないな。



日中戦争とは?

日本は中国に満州国をつくったあとも、中国大陸での勢力を保とうとした。さらに日本はドイツ、イタリアと協定を結び、中国のような共産主義の拡大をふせぐ条約を結んだ。1937(昭和12)年、ついに日本は中国へのこうげきをはじめ、戦争へとつ入っていった。アメリカ、イギリスなどは中国を援助し、戦争は長びき、そのまま太平洋戦争(→p.118)へと進んでいくことになる。



1937年(昭和12)年7月7日、盧溝橋(中国・北京郊外)近くで夜間訓練をしていた日本軍が中国軍のこうげきを受け、日中戦争となった。写真は、盧溝橋を渡る日本軍。